

第 1 回
第 3 期鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会
議事概要

日 時：平成 29 年 6 月 1 日（木） 10：00～12：00

場 所：市役所本庁舎 6 階全員協議会室

出席者：委 員 長長、桑野副委員長、大谷委員（英委員代理）、玉木委員、渡辺委員、成清委員、
中村委員、中島委員、木谷委員、徳田委員、岡本委員、山口委員、杉本委員、赤山委員、
土橋委員、安田委員

事務局：中心市街地整備課

オブザーバー：経済観光部

議事 6 報告・協議事項

（1）中心市街地再生の取り組みの進捗状況

・現行計画の概要と進捗状況【資料 1】（事務局説明）

[徳田委員]新規開業数のところで H 28 年度は 24 件であるが、廃業数が分かれば教えてほしい。

[事務局]データは取っているが、現在手元にないため廃業数はお答えできない。別のデータで空き店舗数の数値はある。新規開業は増えているが、空き店舗は減っておらず、横ばい、もしくは少し増えている状況。21 店舗新規開業しているが、廃業も同数程度で推移していると認識している。参考までに別添で中心市街地内の各種データ集を準備している。その中に空き店舗数データも掲載している。7 月時点での目視で空き店舗と思われるものの数。少し増えている状況。

[木谷委員]各指標の推移をみると平成 26 年度の数値をピークに右肩下がりの状況。フォローアップでも平成 26 年度、平成 27 年度がピークと触れてある。平成 26 年度がピークであった要因とその後、右肩下がりであった要因は何だったのかというあたりは、どのように分析をしているか。

[事務局]確かに平成 26 年度がピークになっている。個別にみると社会増減では、民間集合住宅の影響によって変動も大きくなっている。歩行者・自転車通行量については、計測日が平日・休日ともに 1 日の計測となるため、当日の天候やイベントの有無に左右される。平成 27 年度は大きなイベントがあり、その影響で増加している。平成 28 年度は例年同様 10 月に計測を予定していたが、計測日直前に鳥取県中部地震が発生し、11 月の計測となり気温・天候に左右されかなり低かったものと考えられる。他の影響として、くる梨の利用者数は年々増加、バードハットの集客数も昨年より増えている状況。計測日が低かったのではないかと考えている。
新規開業数は、平成 27 年度は非常に多いが、詳細な分析は出来ていない。市の補助事業を活用して新規開業された件数も例年と比べ大きくは変わっていない状況。独自で開業された方も一定程度あったものとする。

[木谷委員]現状はわかったが、第 2 期の基本計画が策定されてその 2 年後にピークが訪れたということは、やはり何か第 2 期の事業が功を奏したのかどうか、先ほどの説明からすれば、あまり関係なく計測日等の影響により数値にバラつきが出ていると言った

ことかもしれないが、ただ、全ての指標で平成26年度にピークを迎えていることからすれば、何らかの傾向があるのではないかと考える。改めて、その辺の分析もお願いしたい。

[岡本委員] 通行量等は、1日だけでカウントしているということで、要因があって大きく変動するのであれば、データ自体に信憑性が欠けるのではないかと思う。たまたま、その年に大きなイベントがあって、通行量が増えた年もあれば、雨が降って通行量が減る年もある。本来の日常的な通行量を数値としてあらわすものであるため、何日か計測した平均値を表す方が適正なのかなと思う。このデータだけを見て信頼性がかかる気がする。そういった点も考慮していただきたい。

[中村委員] 新規開業についてだが、同じく商店街で商売を営む者として、新規開業して1年間も経たずにお店が閉まるのは、街を回遊する方やお客様にとってイメージが悪いし、商店街の団結と言う部分でもかなりマイナスである。今後の見通しの部分に「起業者への開業への敷居を下げる取り組みを・・・」という方針があるが、今後は、今まで開業をたくさんしてどれくらいの継続だったのか、業種別でもデータが出てくると思うので、やみくもに新規創業を促すのではなくその辺のデータも示しながら創業者へレクチャーしながら進めていることが費用対効果の面でも良いと考える。

(2) 中心市街地活性化に関するアンケート結果【資料3】(事務局説明)

[委員長] このアンケートは何か定まったフォーマットがあり各都市で使われているものか。それとも任意か。

[事務局] 全国的なフォーマットがあるわけではない。今回調査項目は、前回、第2期計画策定前に実施された内容をベースにつくったもの。各都市でやられているものと比較してもほぼ同じ内容を網羅している。

[中村委員] アンケートの対象が満15歳以上という事で、答えていただいた方々の中に把握はできないが子育て世代もおられると思う。子育て世代の女性に限って言えば、アンケート結果では全体の割合が高くても、その層は動かない可能性もある。先日、福岡の大丸とお話をする機会があった。やはりデパートでも集客が大変減少していて、その対策として1階に子供服売り場を設けたとの話を伺った。通常は、5階や6階に設けるのが通例だが、効果が上がり、非常に子ども連れのお母さんが入りやすい環境になったそうである。これを街になぞらえてみると、まちゆく人の動線に対してどのポイントに何があるかは大変重要だと思う。それだけでも人の流れが変わるのではないかと考える。先ほど、空き店舗に対する起業者のマッチングと言う話があったが、街の流れの中に、どのポイントにどんな施設を入れることによって、どういう年代層を呼び込みたいのかという立体的な計画的なマッチングをしてほしい。

[大谷委員] アンケートは前回もとられているが、前回と今回を比較し傾向みたいなものはわからないか。中心市街地に住みたい住みたくないということもあったが、2期計画によってこう変わって良くなったよという意見があれば。良くなっているんでしょうし、否定的な意見より肯定的な意見が出てれば判断ができるころ。先ほども中心市街地の現状とか統計とか取り方にもよるとは思うが、そのあたりが比較できるのであれば、調査概要のところに「前回と比べて」みたいなことがあれば、市民の方の期待だとか、逆にがっかり度じゃないが。冒頭委員長あいさつでも触れられた通

り、ここ10数年見ただけで変わっていないという感覚があるとするならば、結果としても現れているのかもしれない。分析したものを次回の会にでも示して欲しい。

[事務局]比較は簡易で行っているものがあるが、詳細については主観となつてはいけないため後日、お示しするようにする。

[桑野委員]今後必要な整備はどれかという聞き方をし、医療施設は49.1%という結果が得られている。60%は必要ないというように取れる。ほとんどの設問で50%を切っているので、これだけを見ると何も必要ないとなってしまう。何を目的に調査した項目なのか。

[事務局]上位計画に都市計画マスタープラン等がある。本市の中心拠点である中心市街地へ機能集積をかけていくということも計画されている。街に求められる都市機能として何がふさわしいのか、何が求められるのかということを得たかったもの。言われるように逆の方面から見た満足度から見ると医療機関等については、満足度が高く、それと合するとこれ以上必要ないという見方もできるものだと考える。

[桑野委員]満足度は良いかもしれないが、どうすべきか？という部分の結果の見せ方については、気を付けないと値が小さいからと言って必要ないといえ、そういうわけでもない。結果を見られてそうみられると非常にまずいのではないかと考える。見せ方の問題だと思うが。

[大谷委員]年代や性別ごとのクロス集計も必要。桑野委員も見せ方という話をされたが、単純に数値が大きいところだけが期待値でもないと思われる。居住地や様々な角度で傾向分析をしてほしい。

[事務局]本日の説明では時間等の都合で、全てを網羅できていないが別冊で準備している。大谷委員も言われたクロス集計結果も掲載されているので、そちらのほうもご覧いただきたい。また、これらを含めた傾向分析の方は次回までに準備したい。

[委員長]最後に1点だけ、このアンケートは難しい。例えば、中心市街地の印象を聞くという何ともアバウトなところがある。前回調査に同項目があり比較ができるという部分もあるかもしれないが、特に中心市街地内の充実・満足度を聞くところで、「〇〇が充実しているかどうか」という聞き方は、それぞれの基準で回答してしまう。恐らく傾向として、あまり充実していないという回答をしてしまうのではないかと推測する。“充実”まで強く、これ以上いりません的な聞き方よりは、増えてきたや適当であるというトーンダウンした聞き方だと少し回答の傾向も違ってきたのかなと思う。もちろん、鳥取市が全ての充実をめざすというところであれば、この聞き方で良いが、少し現実的ではないかもしれないと思う。最終的に何が言いたいかと言うと、アンケート結果と現実を常に見比べるような事を行ってしまうと、少し齟齬が起きやすくなるのかなと思う。本当に参考程度にとどめておくことが今の時点では重要と思う。何か別の結果なりが出てくれば、その際に検討することが良いと思う。

(3) 第3期計画の策定について【資料4】(事務局説明)

・第3期計画の方向性

[赤山委員]掲載事業について気になるところがあるが、今後、事業詳細について示される予定があるか確認したい。

[事務局]次回示すようにしたい。

[大谷委員]先ほどの説明の中で、国の事前相談を受けて宿題をもらっていると言われたが、我々は説明を聞いていても良くわからない。宿題を受けて検討委員会では何を議論していくのかも少しわかりづらい。7月にはヒアリングが再度あるようになっている。検討委員会と宿題をどうすり合わせていくのか。市で主導してもらって検討委員会側では何もしなくても良いなら良いが、宿題と言われたので、せっかくの検討委員会でもあるし、示していただきたい。何かをクリアしないと次のステップに進まないという事でしょうから、資料等で分かりやすくお示しいただきたい。

[事務局]次回に向けて国の意見等について資料をお配りしたい。言われた内容については、目標指標についてを重点的に言われている。第2期計画で様々な事業を進め目標指標を達成してきている。それでよいのではないか。という部分である。ただ、課題点もたくさんありアンケート調査でも市民の実感としてまだまだ活性化は図られていないという結果が出ており、策定を行なう一つの理由になるのではないかと考えている。検討委員会の場でも目標指標についてはご議論いただきたい。目標指標については過去データもないといけないし、毎年、取りつづけないといえないものであるため、引き続き、事務局でも検討していきたい。

[渡辺委員]第3期の検討にあたり、パブコメをしても出されたものに対して意見等を出していく形になる。通行量をあげるために色々なことをやってきたと思う。例えば、駅ではH25年にバード・ハットができたり、パレットもできたり、こむわかさや五臓圓もできたりしている。指標と比較することも重要だが、そういうモノの整備前後の周囲の通行量の変化を把握することも必要。通行量がさほどなくとも利用率が向上しているなら自家用車など他の方法で来ているという事も考えられる。くる梨も主要施設が整備されると同時に運行を開始し、利用者数増加とあるが後に系統を1つ増やしたことが理由の一つだと考える。このように個別事業効果を捉えたうえで皆で検討することが必要。新たな指標に挑戦していくことを具体的に検討したい。どの事業がどういう影響を与えているかという資料をお願いしたい。

[事務局]我々も歩行者通行量は重要な指標だと捉えている。国へも一度だしどうかと言われたところであるが、分析・予測には非常に重要な指標。例えば、目標指標にするにしても調査地点を変更したり新たに整備された施設の周辺を測定するなど検討していきたい。歩行者通行量のデータについては、また改めてお示ししたい。

[委員長]渡辺委員の今の意見は、歩行者通行量のデータを出して検討しろと言う内容だったでしょうか。それとも、もう少し質的な部分をなにかという意見だったでしょうか。

[渡辺委員]例えば、新たな指標を理解する上でもこういった事業をすればこんな効果が得られるというような、検討する材料になるような資料を示してほしいというもの。

[委員長]事務局はよろしいか。

[事務局]承知した。

[中村委員]商業の面で中心市街地の前年度比の売上げがどうなっているかという部分も非常に重要だと考える。私自身は、活気や賑わい=通行量だとは考えていない。子育てしている者としては、東京からUターンしてきたが、東京より鳥取の方が子育てしやすい。智頭街道は人通りが少ないが、子どもを連れて安心してゆっくり歩けるという環境はとても魅力的で豊かなこと。鳥取が女性のストレスフリー日本一になったの

もそういった部分だと思う。ただただ通過していれば賑わいかと言えばそうではないと思う。大事なのはそこに滞留し消費活動をすること。人通りが多いから賑わいでは無く、きちんとお金が落ちているかどうか把握することが必要。各店舗の売り上げ全てを確認するのは難しいと思うので、例えば、モデルエリアを決めてその売り上げがどう推移しているのか確認できれば良いのかなと考える。

[渡辺委員]小売店の売り上げについては、公表数値もある。例えば、こむわかさの売り上げは公表している。また、事業をした際は、各個店に売り上げの推移を報告するようになっている。ただ、通行量がなぜ必要かと言うと、来街方法を知る良いデータにはなる。空き店舗対策事業などを活用すると報告義務もあるので、だいたいの傾向把握は可能であると思われる。

[山口委員]2点ほど、ひとつはアンケートのこと。現在、中心市街地の店舗を利用している方が答えると結果が変わってくるのかなと思う。というのも、うちでは子育て支援の事業をやっているが、利用者の方にアンケートをとると一番欲しい施設は保育園となる。アンケート結果では30%となっている。それぞれの年代や生活様式によって、望むものが異なってくる。渡辺委員の言われたコムわかさやパレットの利用者を対象にするとまた違う回遊性が生まれるのではないかと期待する。また、今日から県の事業で本通ビル内に託児機能付きサテライトオフィスがオープンする。県の事業であるため、市の事業一覧には掲載されていないが、女性の働き方改革の一環で行われるもの。来月からは、家庭保育をしている子育て女性への支援事業として、コモドで受託するようにしている。中心市街地内で事業主体は異なるが、あらゆる事業が展開されてきている。中心市街地活性化を検討する上では、国・県・市など区別することなく街の良いトピックスとして活用し、それが、新たな創業者とのマッチングの起爆剤になったりするのではないかと考える。事業紹介も含め話をさせていただいた。

[桑野委員]見当はずれな事を言うかもしれないが、例えば、10年前に全く予測されていなかった自動運転もあと数年すれば実現するだろうと言われている。5年後を考えたときに実用化されている可能性はかなり高いだろうと個人的には考えている。事業一覧を見ていると今ある問題を今の技術で解決しようとするものが非常に多い。指標のつくり方も今の技術を前提にこのまま5年後を迎えたらどうなっているかという視点で設定しているように見える。例えば、自動運転が導入されれば高級車を買えない人は自動運転車をシェアタクシーを利用しなくなる。間違いなく人の流れが変わる。5年後を計画してそれに進んでいくのであれば、もう少し先の未来まで考えて最終的な姿になるために、この5年間をどうすべきかというものが事業の中の1~2個あってもよいと思う。アンケートをするにしても、何を欲しいか?と聞かれても何とも答えられない。教育施設、病院などアレもコレも欲しいと言うのはわかっている。それであるなら、いくつか、選択肢を示し「公共交通・自動運転を使いやすくするような組織あるいはITSに投資をしていく」や「子育てに投資します」この中でどれが一番重要ですか、どれであれば受け入れられますか。というニーズを把握し、問題を1つずつクリアするのも当然必要であるが、それに加えて、これをめざすということをきちんと示し、今後の社会情勢や現代技術も踏まえビジョンを示すことも必要なのではないかと考える。

[杉本委員] 今まで説明していただいた内容を聞いて、基本的に1期・2期の成果は右肩下がりの実績でしか結論付けられないような状況だったということ。第3期計画における新規事業が赤字で書いてあるものや様々見ても、中心市街地に活性化に特化したものばかりでなく、一般の事業も多く入っているため、山盛りになって何がポイントで魅力づくりになっていくのか見えてこないものになっている。総論として住みやすい街づくりとかそういったことを言われているが、桑野委員が言われたような中心市街地に人を連れてくるだけの魅力を何をもってして成し遂げようとしているのか。成果が上がらない要因の分析がこれまでの説明の中ではわからない。それから、新しい事業についても、前向きな新たな指標が見えない。とにかく、穴が無いように様々網羅しているが、ポイントとして何が魅力か見えないような形になってしまっているもので、これではまた5年後に何をやってたんだという結論になるしかない。それに向かって進んでいるようにしか見えないので、もう少し、違った指標のつくり方や重点ポイントのつくり方ができないものか。

[土橋委員] 関連して、駅周辺も土日に出ても食事をする場所がない。バード・ハットでイベントが開催され出店もあるが、すぐに売り切れでない。お店で食べようと思っても案外ない。集めても昼をとるところがないと、行く気がしない。その後がない。長く滞在できる、買い物したり飲食したりする場所がない。バランスが取れていない気がする。割と食べることは大事。だから、イオンに行ったり湖山街道に行ったり飲食店が多いところに人が集まって、駅前周辺は別に駐車場がないからとかではなく、魅力的な飲食店が無いからではないかと私は考える。

[事務局長] 実を言うと国からの指摘も、おっしゃられるとおりで、なぜ3期に向かうか。2期これまでやったことのもちろん成果もあるが、2期とは異なる新たな課題があり克服するために3期を策定するんだと言われている。その中で、目玉がぼやけており薄いと言うところはこちらも認識している。本市としてもあるべき方向をしっかりと方向づけるための街づくりの考え方を示さないと、何を検討したらよいかも分からないと考える。実情としては今ある事業だけを抽出している状況。その辺のところも皆さんと検討が出来ればと考えている。

[大谷委員] 杉本委員と同意見になるが、市として2期もそうだが、逆に盛り込んでないと国から支援を受けられない事業と、目玉として重点的にやっていく事業と棲み分けをやった方が良いのではないかと考える。この計画に入れておかないと国から支援がもらえませんかよということがあるため、盛り込んでいるものもあると思う。そのあたりはどうか。

[事務局長] その通りです。今現在、入れておかなければならないものを羅列している状況。あるべき方向に向かっていこうという事業は現在のところ薄い状況。それを今後、3期に向かう新たな要素と言う意味ではしっかりと示しておかないといけないと考える。そこら辺を検討の題材にさせていただきたい。

[木谷委員] 市役所が移転するという事で、駅南側をどうするのか、また、現本庁舎等跡地をどうするかということも大きなこと。この度の計画のスケジュール感が12月に申請という事になると今後、9月にパブコメを行うということになると、跡地検討のスケジュールとどう併せていくのかという事と、委員として文化と言う立場で申し上げるが、41番に街なか美術展開催事業があるが、こちらをはじめ様々な事業が出

されていかないと活性化には結びつかないとは思いますが、若桜街道にある民間ギャラリーの廃止も現実のこととしてある。そういったものに対して、計画の中にどう反映していくか。中心市街地の活性化のために文化芸術が重要な要素だという意識、あるいは観光に結びつくということであれば、48番と55番に大いに関係するだろうと思われる。ここらあたりの位置付けをもう一度、一つの文化観光の視点で政策として整った方が良いと思われる。一つの事業は事業で大切だが、方向性を考えていった方が良いと思う。

[事務局]跡地活用については、現段階では検討事業と言う掲載しかできない状況。また、計画の方がまとまれば、中活計画へは追加し国の支援事業等も受けたいと考えている。街なか美術展については、商店街を巻き込んで開催し賑わいを高めていこうとするもの。文化芸術を使った観光は我々としても強調したいところ、特に国の方からも観光を目玉にしてはどうかと言われている。今ある事業で進めるのは少し弱いところがある。何か追加できるような事業があれば、もう少し強い計画にしていきたいという思いもあるので、検討を進めていきたい。

[杉本委員]街なかの人口比率、若年層の比率が示され、かなり差が大きいが、今回の中心市街地の活性化事業は高齢者向けなのか、それとも、若年層を取り込むことに多くの目標を充てるのかによっても事業の内容が違ってくる。観光にしてもそう。高齢者対象と若い方だと、ITを使った観光、そういったものを使ったツールの拡充が必要だと思う。Wifiだとかいろんな市内観光の設備が今ではまだ足りていない。それから、若い方が起業するにしてもIT関係の設備の充実。先ほどあったような5年先を見据えた事業計画が必要。若い年代層に向けて魅力をアピールするにしても。対象の向け方、高齢者の方には高齢者の対策が必要だが、これからこういった方向に舵を切るのかということを考えるときには、やはり、子育て世代、若年世代に魅力を感じてもらわないと拡大していかない。縮小方向にしか向かない。その点で、こういった要望が将来生まれてくるのか、そういったことを先取りするような提案をしていかないといけない。後付けの計画では全く意味がない。もう少し先進的な計画を検討していただきたい。

[赤山委員]目玉と言う話が出た。第2期まではなかった言葉としてリノベーションと言う事がある。昨年1年間かけて全くゼロの状況から構想をつくった。今年、それに基づいてリノベーションまちづくり会議の開催も予定されている。せっかく、同じ課の中でやられているので、3期計画の策定に関しては連携も図っていただきたい。

[成清委員]本日は、限られた時間の中で今後の街のあるべき姿と言う部分の議論が十分にできなかったと思う。かなり、それぞれ専門の方々に参加をいただいている。7月11日に国のヒアリングを受け、宿題に対する回答も持っていないといけないという中、次回は7月上旬となっている。とても時間が足りないと思われる。赤山委員が言われたリノベーションまちづくり構想検討においては、間にフリーディスカッションのような集まれる委員が集まって議論する機会が設けられた。同じように機会を設けてはどうかと思うがどうか。

[委員長]今ご提案がありましたが、どうでしょう。委員のみなさんに応えていただくというより、方法なりやり方なり提示していただき賛同していただくという事でしょうか。時間が無いのは事実だと思われる。7月11日がこういった内容になるのか分から

ないが、事務局の考えがあればお伺いしたい。

[事務局]今聞いたところであるので即答はできないが、6月初旬にかけて国とはやり取りを行う予定であるので、それを踏まえて皆様に情報を流したり、または集まる機会をつくったりという事を検討したいと考える。

[委員長]承知した。時間を少し超過しているため、その他を説明頂きその後の進行を事務局にお返ししたい。

[事務局]今後の開催日を調整したい。予定としては7月3日か4日で設定したいと考える。欠席の方もおられるので、後日、メールで調整をさせてもらう。

(以上)